

第1会場(第1展示場A)

8:50 開会挨拶

9:00 シンポジウム1

ウェアラブル×医療AIの最前線：技術革新から社会実装へのロードマップ

座長 児玉 逸雄 名古屋大学
佐久間一郎 東京電機大学総合研究所, 東京大学

演者

SY1-1. ウェアラブルデバイスを活用した心不全検出AIの開発

藤生 克仁 東京大学医学部附属病院

SY1-2. 非接触型導電繊維を用いたウェアラブルデバイス開発

植野 彰規 東京電機大学工学部電気電子工学科

SY1-3. ウェアラブルデバイス等を活用した心電計プログラムの承認審査の考え方

田中 孝仁 独立行政法人医薬品医療機器総合機構プログラム医療機器審査部

10:30 休憩

10:40 会長企画1

遠隔医療×心臓リハビリテーション：医工連携と社会実装の最前線

座長 李 鍾國 大阪大学大学院医学系研究科心血管創薬再生医学共同研究講座
因田 恭也 名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学

演者

CP1-1. 統合型遠隔心臓リハビリシステムの研究開発

谷口 達典 大阪大学国際医工情報センター

CP1-2. NTTにおける心疾患への取組みと社会実装

越野 剛 NTTコミュニケーションズ株式会社BS本部SWB部スマートヘルスケア推進室

11:40 休憩

11:55

ランチョンセミナー1

不整脈診療における7日間ホルター心電図検査の活用を考える

座長 岡 崇史 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学

演者 宮内 靖史 かわぐち心臓呼吸器病院循環器内科

ディスクッサー

廣田 哲朗 大津赤十字病院検査部

鈴木 郁枝 東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部

小島 光司 JA愛知厚生連江南厚生病院診療協同部臨床検査室

共催：日本ライフライン株式会社

12:55

休憩

13:05

レジェンドセッション

レジェンドによる忘れ得ぬ1枚の心電図から

座長 外山 淳治 名古屋ハートセンター

杉 薫 小田原循環器病院

演者

LG1. 私の人生を決めた症例との出会い

小川 聡 小川聡クリニック

LG2. 忘れえぬ心電図

犀川 哲典 大分三愛メディカルセンター

14:05

休憩

14:10

特別講演

Catheter Mapping/Ablation of Atrial Fibrillation- Beyond the Pulmonary Vein Isolation: What have we been missing for the last 30 years?

座長 松本 万夫 東松山医師会病院

狩田 浩 福井大学医学部病態制御医学講座循環器内科学

演者 中川 博 Department of Cardiovascular Medicine, Cleveland Clinic

15:00

休憩

15:10

会長企画 2

心電図自動診断の現状と今後の展望

座 長 笠 巻 祐二 金沢医科大学氷見市民病院総合診療科
渡 邊 英一 藤田医科大学ばんだね病院内科

ディスカッサー

高 柳 恒夫 日本光電工業株式会社
山 内 剛 フクダ電子株式会社

演 者

CP2-1. 歴史的背景

平 岡 昌和 循環器内科クリニックひらおか, 東京医科歯科大学 (現・東京科学大学)

CP2-2. 自動診断の現状と問題点

加 藤 貴雄 東武鉄道株式会社診療所, 日本医科大学

CP2-3. AI は心電図自動診断をどう変えるか

笹 野 哲郎 東京科学大学循環制御内科学

16:40

休 憩

16:45

企画：心電学委員会 / 健康保険委員会

心電図記録デバイスの保険診療にかかる最近の話題

座 長 高 橋 尚彦 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座
渡 邊 英一 藤田医科大学ばんだね病院内科

演 者

1. 健康保険委員会報告－不整脈領域における保険診療の課題

今 井 克彦 NHO 呉医療センター心臓血管外科

2. 2024JHRS/JCS 携帯型 / 装着型心電計の適切使用に関するコンセンサスステートメントと適切な保険点数のあり方

芦 原 貴司 滋賀医科大学情報総合センター・医療情報部・循環器内科

3. 着用型自動除細動器 (WCD) に関わるコストの変遷と保険委員会の関わり

加 藤 律史 埼玉医科大学国際医療センター

〈概要〉

従来、24時間記録が一般的であったホルター心電計が、医療現場や社会のニーズに基づく昨今の医工学デバイスの開発・改良により小型化され、24時間を超える長時間記録を可能とするものが増えてきた。日常生活のなかで短時間の心電図記録を可能とする携帯型の心電計やウェアラブルスマートデバイスも、すでに珍しいものではなくなった。しかしながら、そうした心電図記録を可能とする種々のデバイスには、保険診療に用いることのできる医家向けのものと、そうでないものが混在しており、保険診療のなかでの用い方についても、しばしば混乱を来している現状がある。本セッションでは、そうした昨今の心電図記録デバイスの活用と、その保険診療のあり方について最新の考え方を整理し、ともに考える機会にしたい。

GRILL TERRACE ABURU < 1 階 >

17:45 ～ 表彰式, 閉会挨拶
※エスカレーターで1 階にお越しください.